巻頭言

第67巻の巻頭にあたって

国立医療学会理事長
桐野高明

IRYO Vol. 67 No. 1 (3) 2013. 1

新年あけましておめでとうございます．昨年11月16日から17日に神戸国際会議場において第66回国立病院総合医学会（会長　楠岡英雄大阪医療センター院長，副会長　陣内研二兵庫中央病院院長）が開催されました．本学会は参加者総数が8000名を越えたと聞いています．国内有数の大学会の一つであることは間違いありません．16日に開かれた全員交流会は広々とした会場がぎっしり埋まるほどの盛況であり，国立病院機構をはじめとする参加各施設のメンバーが明るく楽しそうにしておられる様子を見て，意を強くして東京に帰ってきました．

国立医療学会のもう一つの重要な事業が，機関紙「医療」の発行であることは言うまでもありません．国立病院総合医学会が第66回であるのと同様，本機関紙もVol66までが発行され，本年はVol67となります．終戦直後の時代から連綿として続いている機関紙であることを改めて実感しました．学会では，機関紙の発行を重要な業務を位置づけてきています．この機関紙は国立医療学会のメンバーが主として投稿者になりますから，メンバーに役に立ち，繰り返し読まれるようなものであって欲しいと思います．雑誌には，これとは別に国際的に高い評価を受け，インパクトの大きいものもありますが，それを目指すものではありません．ただ，この雑誌から育って，国際的な一流誌に掲載されるようになる研究が生まれれば，すばらしいことは言うまでもありません．従来も重点が置かれていた，学会シンポジウムの内容を論文化すること，通常の学術誌とは少し異なり病院の運営に直結するような記事を掲載すること，教育的に重要なトピックを取り上げること，などは是非今後も力を入れていきたいと思います．特に国立医療学会を構成する各職種のメンバーには，病院の経営，病院各部門での業務，医療安全，院内感染，治験，医療情報などの経験と知識が蓄積しており，そのような方面での情報の蓄積の場としても利用して頂けるのではないかと思います．さらに，内容が後日繰り返し参照され，また読まれるためには，昨今は内容をインターネット経由でPDFファイルとして読めるようにすることが必要です．幸いにしてこの点も，すでに当機関紙は実現しており，心強い限りです．発行後からPDF化の期間をもう少し短縮していきたいと思います．今後も本機関紙がますます多くの皆さんに読まれ，利用されることを期待します．